

平成30年度 SSH研究開発の仮説にかかわるアセスメント（教職員用）

* 事業名()

このアセスメントは研究開発の仮説の検証を行うためのものです。以下の質問について、評価基準に従い

④ ③ ② ①で評価しマークして下さい。

評価基準 ④ よくあてはまる ③ ある程度あてはまる ② あまりあてはまらない ①まったくあてはまらない

質 問		評 価
仮説 1	中高一貫教育における体系的な教育プログラムの開発により科学技術人材としての資質・能力が育つ。 ①中高6年間を通じた体系的な取組になっている。	④ ③ ② ①
	②先端科学研究に触れることができ、科学的好奇心が向上する取組になっている。	④ ③ ② ①
	③探究的な学び（課題発見・情報収集・整理分析・まとめ表現）の資質・能力が高められる取組になっている。	④ ③ ② ①
	④取組を通し他者を理解し協働する力が身につく取組になっている。	④ ③ ② ①
仮説 2	融合教科・科目としての教育課程の開発により科学技術人材に求められる思考力・判断力や科学的リテラシーが育つ。 ①教科および領域の関連性を考え横断的な取組になっている。	④ ③ ② ①
	②キー・コンピテンシー（社会・文化・技術的ツールを活用する能力、人間関係形成力、自律的行動力）を高めることを意識した取り組みになっている。	④ ③ ② ①
	③思考力・判断力・表現力が深化する取組になっている。	④ ③ ② ①
	④課題に対して科学的知識を使用し解決し、根拠を示し論理的に説明する力（科学的リテラシー）が育つ取組になっている。	④ ③ ② ①
仮説 3	地域の科学技術拠点校として小中高大企業連携と高大接続に関する方策の開発により山形の未来を担うリーダーが育つ。 ①地域の科学技術拠点校としての取組になっている。	④ ③ ② ①
	②大学・企業・研究機関や小学校・中学校・高校と連携した取組になっている。	④ ③ ② ①
	③グローバルな視点（国際的な視野と地域的な視野）を持った取組になっている。	④ ③ ② ①
	④未来をつくり地域に貢献する態度が育つ取組になっている。	④ ③ ② ①
その他	SSHの取り組みについて心配されることがあれば、ご自由にお書き下さい。	